

三重県認知症施策推進計画（最終案） 修正提案 委員意見

○ 3 頁【修正提案】

2 計画のめざすべき方向性

2 段落目

県民一人ひとりが認知症に関する知識及び認知症の人に関する理解を深め、自分ごととして捉えることで、認知症に関する誤解や偏見をなくすため、国の「認知症施策推進基本計画」の前文に掲げられた「新しい認知症観～（以下変更なし）」

理由：国の「認知症施策推進基本計画」の前文に掲げられた「新しい認知症観」であることを明確にするためです。「新しい認知症観」は、この後何度も出てくるので、「新しい認知症観」をどこかに定義して表記した方がよいと思いましたので提案します。

○ 15 頁【修正提案】

（認知症の人や家族等が地域で自分らしく生活できるようにする）

1 段落目

共生社会の実現に向け、基本理念に沿って施策を推進していくに当たり、誰もが認知症になり得ることを前提に、自分ごととして認知症について考え、認知症の人や家族等、保健医療福祉の関係者だけでなく、広く県民が、認知症になっても一人一人が個人として尊重され、希望を持って自分らしく暮らし続けられるという「新しい認知症観」（3頁参照）を理解する必要があります。そして、認知症の人と家族等の参画・対話を基に、施策を立案、実施、評価し、地域住民、教育関係者、企業等地域の多様な主体が「新しい認知症観」に立ち、それぞれ自分ごととして、連携・協働して施策に取り組む必要があります。

2 段落目

認知症の人がその個性や能力を發揮でき、希望を実現しながら、本人が希望する場所で新たな仲間等とつながり、これまで培ってきたの生活の中で友人関係や地域社会との絆つながりを持ち続け、自ら分の人生を大切にし、地域で安心して自分らしく生活できるようにすること、また、家族等も同様に仕事や生活を営むことができるようにすることを意識して取り組んでいくことが重要です。特に、周囲とのつながりが断たれることによる孤立を防ぎ、社会の一員として参画し続けられる環境づくりを推進します。

理由：国の「認知症施策推進基本計画」の前文に掲げられた「新しい認知症観」

に立って、基本目標が施策と結びついていることを明確にするためです。

- ・「一人一人が個人として」「尊重」の挿入

認知症の方という診断名で一括りにするのではなく、その人の人格や人生の継続性を尊重することを強調しました。16頁からの基本的施策や、第4章の具体的な取組にある「意思決定支援」や「相談体制の整備」「生活の質の向上」などとのつながりがより強固になると思います。

- ・「仲間等とつながり」の明記

国の「新しい認知症観」にある「仲間等とつながりながら」という言葉を明記しました。単に「本人だけが頑張る」のではなく、地域社会・コミュニティの中の「関係性の維持」が共生社会の柱であることを示しています。

- ・「孤立防止」と「参画」の挿入

「地域の人にも精一杯で頼れない」という現場の声を意識し、「孤立を防ぐ」「参画し続けられる環境づくり」という表現を加えました。これにより、第4章の具体的な取組にある「チームオレンジ」や「通いの場」といった具体的施策の必要性がより明確になると思います。

○20頁【質問】

(現状と課題)

②段落目

学校教育における啓発を進めるためには、福祉と教育の両部門が連携して取り組み必要があります。

→計画の進行管理を進める意味で、福祉部門ではない教育部門とどのように連携を実行するのか、部門横断の調整はどのように進められるのでしょうか。

○21頁【修正提案】

(2) 社会教育における～

(現状と課題)

1段落目は、「新しい認知症観」の説明なので、表記方法を改めるか、3頁との連動をした方がよいのではないかと思います。

○23頁【修正提案】

(県の取組)

3段落目

今後の生活の見通しなどに不安を抱えている 認知症の人 に対して、精神的な負担の軽減と社会参加の促進を図るため、認知症の人 による相談支援である、ピアサポート活動を開催し、認知症の人や家族等 による発信の支援を推進します。

理由：1行目と2行目の「認知症の人」に対して、3行目は「認知症の人や家族等」となっています。ピアサポート活動はどちらも有効と思われます。同じ表現でよいように思います。あるいは別の意図があるのであれば修正なしになります。

○44頁【修正提案】

コラム

（有償ボランティア）の表記

洗車活動（有償活動）、有償の社会貢献活動、有償の洗車協力活動、ボランティア（実費支給）などではいかがでしょうか。

例えば、見出しに「認知症の人が行う洗車協力活動（社会貢献活動）」とし、本文には「ボランティア（実費相当の謝金あり）」と記載を入れるのはいかがでしょうか。

理由：「無償」であるはずのボランティアに「有償」がつくのは矛盾しているのでは？との指摘を受ける可能性があります。一方、労働とは異なることを明記する必要もあると思います。よって、ボランティアや社会貢献活動であるが、一定の謝金等実費が担保されていることを表せればよいと思いました。

なお、3,000円とは、一人あたりではなく、4台で3,000円の謝金という理解でよろしいでしょうか。

そうであるならば、「※いただいた謝金（3,000円/4台）は、活動の実費（資材費等）に充当いたしています。」と注釈をつけてもよいと思います。

○79頁【質問】

重点目標2

（12）地域生活の様々な場面において、認知症の人の意思が尊重され、本人が望む生活が継続できていると考えている認知症の人及び県民の割合

このアウトカム指標は、どのように割合を高めるのでしょうか、

国の「認知症施策推進基本計画」に定められている項目と認識しますが、成果確認が難しい項目と認識します。

具体的にどのようなことを高めれば、改善できるのか。国の説明等が出されているのであれば、ご教授頂きたいです。